

【記 事】

消化器癌治療研究会 32年の軌跡

伊 坪 真 理 子

東京慈恵会医科大学附属病院総合診療部

I. は じ め に

東京慈恵会医科大学附属病院内で定期的に開催されている研究会は数多いが、その中で消化器癌治療研究会は長く続いているものの一つである。研究会スタートから世話人の一人となり平成25年3月末に本学を定年退任するまで継続してかかわってきたが、正式な研究会記録が保存されていなかった。同年9月に開催された第130回消化器癌治療研究会での本研究会の歴史、およびそれに重ねて私のライフワークである肝癌研究をテーマとした特別講演の内容を本誌に寄稿するよう、研究会代表世話人の相羽恵介教授（腫瘍・血液内科）より勧められた。本研究会の初心を振り返りその軌跡を辿るのは責務かと資料として纏めることとしたが、当初手元には最近の記録しかなかった。幸いにも、大学の自室に保管していた私物からごく一部のみを自宅に持ち帰り放置したままであったものの中に、消化器癌治療研究会と表書きした古いノート2冊を見出した。保存していた記録と記憶をつなぎ合わせての纏めである。

II. 研究会のスタートとその目指すもの

前述した1冊目のノートの最初のページには昭和56年11月頃に記したと思われる昭和57年度開催予定表の手書きの記録があり、2ページ目には昭和57年1月11日開催の第5回研究会案内の配布プリントが貼付してあった (Fig. 1)。キックオフとなった会議については、小会議室で消化器疾患の診療にかかわる複数名の内科・外科・放射線科医師たちが机を囲み、初代世話人の放射線科望月幸夫教授が司会されていたと思われるワンシーンのみが記憶に残っている。しかしその正確な日

時や顔ぶれ、当初の研究会内容については記憶になかったが、この資料より昭和56年にスタートしてその年に計4回開催されたことが確実となった。後述するように年間の開催回数は変化したものの32年間継続し、33年目に入った平成25年9月に130回目を迎えた。

本研究会の目的を正確には再現しえないが、残された資料から趣旨を述べたい。研究会スタート当時の消化器癌診療の時代背景として、少なくとも肝癌診療の実態は現在とは隔世の感があった。それでも医師となった昭和49年春以降、肝癌の基礎・臨床は急速に進展していった。消化器領域全般を含め医学・医療すべてが同様の状況であったかと思われる。それゆえに、本学で消化器癌診療にかかわる医師達は各教室での診療の実態・実績を呈示し、情報を共有して消化器癌診療水準の向上と各分野の連携構築を図り、また個々の基礎的・臨床的研究成果や新たな情報を呈示して学び

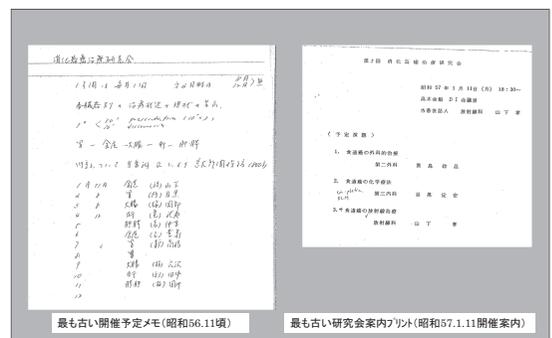


Fig. 1. 昭和57年開催予定メモと第5回研究会案内プリント
開催予定メモ（左）は前年11月頃開催の世話人連絡会議での決定事項のメモ。第5回研究会は案内プリント（右）から食道癌をテーマとして昭和57年1月11日（月）に開催された。

あい、実臨床・研究へのフィードバックを図ってさらなる進展を目指した。

III. 研究会の構成

正確な日付は不明であるが、代表世話人は放射線科の望月幸夫先生から第三病院外科時代の伊坪喜八郎／第1外科の櫻井健司各先生（在任期間の中で調整）へ、さらに第三病院内科の田中照二先生に引き継がれ定年退任後、研究会に永くかわっていた私に打診があった。会の活性化には代表は講座主任教授が望ましいと考えて消化器・肝臓内科主任教授につかれていた田尻久雄先生にお伺いをたて、固辞されたが一時お名前を拝借することとなった。まもなく腫瘍・血液内科主任教授に相羽恵介先生が就任され、それを機に現在に至っている。

世話人は各教室・講座から1-2名が選出され、研究会の運営に携わった。当番制で会開催の責任を持つが、もっとも古い資料となった自筆メモより研究会スタート2年目の昭和57年度当番世話人リストより（開催順、敬称略）、山下孝（放射線科）、目黒定安（第3内科）、岡部紀正（第1外科）、秋庭真理子（伊坪旧姓・第1内科）、仲吉昭夫（第2外科）、貴島政邑（第2外科）、野間健司（青戸病院内科）、穴澤貞夫（第1外科）、田中照二（第三病院内科）各先生が世話人のお一人であったことが確かとなった。昨春以降も現役の大学教員名は見当たらず、本研究会の歴史の長さを物語るものであろう。

参加者の顔ぶれは各回のテーマ・演題に応じて流動的であったが、附属4病院の内科・外科が独立教室・講座であった当初は関係する各担当教授も参加され、より緊張感と活気に溢れた場であったように記憶している。32年の間には多くの各科医師・学外医師ときにはコメディカルが参集したが、残念ながら研究会当日に記帳したはずの名簿は残されていない。

IV. 運営方式

前年度の世話人会議（当初の名称は連絡会議）で指名される当番世話人には、各回のテーマが臓

器別で構成されていたことからその領域に関係の深い者がついた。その方式は少なくとも平成9年当時も踏襲されており、食道、胃、大腸、肝、胆・膵（あるいは肝・胆・膵）の順番であった。年間スケジュールの年度末は12月であったが、途中で年度を4月から翌年3月までと変更された。

当初の開催場所は主に高木会館7階にあったK会議室であった。その後7階は改修されて緩やかな傾斜をもった会議室は医学生の演習室にと様変わりした。

年間開催回数は2年目となる昭和57年が最多の10回で、昭和60年までは9回、翌年は7回となりその後3-4回になった。時代を追って癌領域を含め学内外の基礎・臨床系学会・研究会が林立し、各種会議も多数あるなどでとくに中堅以上の教員は時間的に余裕がなくなり、最近では3回に定着し、テーマ・発表形式なども変化していった。各教室で集積した診療実績を持ち寄って情報共有しさらなる向上への模索から始まり、新たな化学療法レジメや治療手技の情報・経験を提供し合って実臨床への応用、示唆に富む症例からの学びなど、より専門分化して急速に展開するさまざまな知見を互いに提供し学びあう場となった。募集演題に加えておもに学外講師による特別講演や最近では学内医師による専門領域のミニレクチャーが組み込まれるようになり、その回の当番世話人が知恵を絞って講師を選定し、魅力的な話題が提供されている。

ほとんど欠落なく残っていた第5回（昭和57年1月）から第58回（平成2年6月）までの開催内容を提示する（Table1）。それぞれの時代に意欲的に取り組んでいた人々を想像して頂けると思う。

Table 1. 研究会開催記録 (第 5 回 -58 回)

回	開催日	当番世話人	所属	テーマ	演者	所属	演題名 (趣旨)
5	1982.1.11	山下 孝	放射線科	食道がんの 治療	高梨 俊志	放射線科	放射線療法について
					目黒 定安	第 3 内科	化学療法について
6	1982.2.8	目黒 定安	第 3 内科	胃癌	貴島 政邑	第 2 外科	外科療法について
					目黒 定安	第 3 内科	進行胃癌の化学療法
					小林 直	第 3 内科	再発・進行胃癌に対する FAM 療法など
7	1982.3.8	岡部 紀正	第 1 外科	大腸	川村 光良	内科 (第三)	過去 3 年間の非胃切除胃癌と化学療法
					穴澤 貞夫	第 1 外科	第 1 外科における大腸癌症例
8	1282.4.12	秋庭 真理子	第 1 内科	肝臓	中本 実	第 2 外科	外科的治療；肝切除
					小林 進	第 1 外科	外科的治療；最近経験した 2 症例
9	1982.5.10	仲吉 昭夫	第 2 外科	胆，膵	木野 雅夫	放射線科	放射線治療+動注療法の基礎
					坪井 良典	内科 (第三)	第三分院内科における肝臓治療
					秋庭 真理子	第 1 内科	化学療法 (動注療法)
					目黒 定安	第 3 内科	膵癌の化学療法
10	1982.6.14	貴島 / 仲吉	第 2 外科	食道	高山 誠	放射線科	術中レ線照射の現況
					衛藤 公治	内科 (第三)	膵癌の治療の現況，長期生存例
					仲吉 昭夫	第 2 外科	膵癌の外科的治療
					町田 崇	第 1 外科	最近経験した食道 Carcino Sarcoma
11	1982.7.12	野間 健司	内科 (青戸)	胃	天野 良平	外科 (第三)	われわれの食道がん合併療法
					貴島 政邑	第 2 外科	第 2 外科における食道癌の治療成績
					鈴木 博昭	外科 (青戸)	レーザーによる潰瘍と癌に対する止血
					目黒 定安	第 3 内科	多施設における胃癌の治療成績
12	1282.9.13	穴澤 貞夫	第 1 外科	大腸	真島 香代子	内科 (青戸)	症例報告 1
					永田 悦男	内科 (青戸)	症例報告 2
					高山 誠	放射線科	胃癌の放射線治療
					小林 進	第 1 外科	根治不能，再発例に対する持続動注
13	1982.10.18	田中 照二	内科 (第三)	肝臓	秋庭 真理子	第 1 内科	第 1 内科過去 2 年間の結腸癌症例
					坪井 良典	内科 (第三)	第 1 内科 ADM+MMC one shot 動注
					山下 孝	放射線科	第 3 分院内科 ADM+MMC one shot 動注
					矢部 秀樹	内科 (第三)	RF 波による Hyperthermia と化学療法
14	1982.11.15	岡部 紀正	第 1 外科	胆，膵	西野 博一	第 3 内科	肝臓化学療法の効果判定と血清 GLDH 活性
					中本 実	第 2 外科	膵臓癌の診断としての P.O.A. の評価
15	1983.2.7	山下 孝	放射線科	食道 各科の現状	中村 督	第 3 内科	胆肝癌の治療と予後
					鈴木 康元	内科 (第三)	化学療法
					貴島 政邑	第 2 外科	教室での集計
16	1983.3.7	高橋 宣胖	第 2 外科	胃 治療成績	術式及び By-Pass 術の適応，有用性	第 2 外科	術式及び By-Pass 術の適応，有用性
					相羽 恵介	第 3 内科	化学療法 (FAM 療法) の成績
					大石 裕代	内科 (第三)	当科の集計及び治療成績
					山下 孝	放射線科	再発癌に対する X 線照射及び Hyperthermia
					高橋 宣胖	第 2 外科	各科の治癒，非治療手術の stage 分類，切除率，化学療法
					町田 崇	第 1 外科	同上
					長山 瑛	外科 (第三)	同上

回	開催日	当番世話人	所属	テーマ	演者	所属	演題名(趣旨)
	1983.4.4	非開催					
		穴澤 貞夫	第1外科	大腸			
17	1983.5.9	田中 照二	内科(第三)	肝	矢部 秀樹	内科(第三)	S54-56の教室の集計, 動注療法とその合併症対策
					伊坪 真理子	第1内科	同上
					中村 亮	外科(第三)	教室における肝癌治療
18	1983.6.13	中本 実	外科(第三)	胆, 膵	中本 実	第2外科	第2外科における肝癌手術例
					小林 輝久	外科(第三)	胆管癌手術例の検討
					橋口 文智	外科(第三)	膵臓癌切除例の検討
					岡部 紀正	第1外科	胆道癌, 膵臓癌の治療成績
					高橋 宣胖	第2外科	胆道癌の治療成績
					山下 孝	放射線科	Hyperthermiaでの放射線, 化学療法
19	1983.7.4	中村 督	外科(第三)	食道	天野 良平	外科(第三)	演題不明
				各教室の集計, 治療成績	星 (康男)	第1外科	演題不明
					貴島 政邑	第2外科	演題不明
					山梨 (俊志)	放射線科	演題不明
					永田 (悦男)	第3内科	演題不明
20	1983.9.12	目黒 定安	第3内科	胃	高橋 宣胖	第2外科	外科治療の現況
					川村 光良	内科(第三)	高年者胃癌の問題点
					横山 謙三	第3内科	骨髄癌腫症を伴った胃癌
					目黒 定安	第3内科	3内における最近の治療成績
					山下 孝	放射線科	放射線治療の役割
21	1983.10.17	平井 勝也	第2外科	大腸	鈴木 康元	内科(第三)	教室の治療成績
					高橋 宣胖	第1外科	大腸ポリペクトミー
					吉田 渡辺	第2外科	切除不能, 再発大腸癌の治療
						放射線科	放射線療法の意義
					平井 勝也	第2外科	症例呈示 末期再発大腸癌の姑息法として腸管全摘
22	1983.11.14	伊坪 真理子	第1内科	肝・胆・膵 肝癌に対する 肝動脈塞栓	高橋 宣胖	第2外科	アンケート調査より
					宮本 栄	第1外科	肝臓癌腹腔内出血例に対するTAEの応用
					中本 実	第2外科	肝癌に対するTAEの検討
					伊坪 真理子	第1内科	肝癌に対するTAEの一経験例
23	1983.12.12	田中 照二	内科(第三)	1年間のまとめ	田中 照二	内科(第三)	
24	1984.2.13	不明	第1外科	食道	不明		演題不明
25	1984.3.12	平井 勝也	第2外科	胃	池田 幸市	第3内科	癌研化学療法センターにおける胃癌化学療法の現況
					高橋 宣胖	第2外科	スキルス胃癌の問題点
					長山 瑛	外科(第三)	ボルマンIVに対する手術
26	1984.5.14	伊坪 真理子	第1内科	大腸	石田 秀世	第1外科	症例呈示
					山下 孝	放射線科	呈示症例へのコメント
					足利 建	第2外科	教室の大腸腺腫と大腸早期癌の検討
					小林 直	第3内科	大腸癌の tumor stem cell assay と抗癌剤感受性試験
27	1984.6.11	目黒 定安	第3内科	肝・胆・膵	吉田 和彦	第1外科	最近経験した微小肝癌の一例
					柳沢 暁	第2外科	長期生存の上部胆管癌の一例
					伊坪 真理子	第1内科	肝細胞癌 One Shot 動注療法におけるMMCとADMの比較検討
					兼平 千裕	放射線科	演題不明
28 予定	1984.7.9	非開催	内科(青戸)	未定			

回	開催日	当番世話人	所属	テーマ	演者	所属	演題名(趣旨)
28	1984.9.10	山下 孝	放射線科	食道(特別講演)	石川 達雄	放医研	食道癌の放射線治療(中性子線の効果も含めて)
29	1984.10.8	不明	内科(第三)	胃	不明		演題不明
30	1984.11.12	中村 浩一	外科(第三)	大腸	片山 隆市	第1外科	大腸癌膀胱浸潤例の検討
					木村 明	第2外科	直腸癌に対する Pelvic Exenteration 施行例
					三浦 栄一郎	外科(第三)	R・S 癌肝転移を一期的に肺転移も切除した1例
32 予定	1984.12.10	非開催	外科(青戸)	肝・胆・膵			
31	1985.2.18	伊坪 真理子	第1内科	肝・胆・膵	藤沢 孝一郎	内科(第三)	当科における肝動脈塞栓療法の経験例
					吉田 和彦	第1外科	切除不能肝臓癌に対する RFA 使用 TAE
					中村 亮	外科(第三)	食道静脈瘤合併 HCC の治療
					伊坪 真理子	第1内科	確診後1年以上生存した HCC 症例
32	不明	不明		不明			演題不明
33	不明	不明		不明			演題不明
34	1985.5.13	穴澤 貞夫	第1外科	大腸	高山 誠	放射線科	Colo-rectal cancer の術前放射線治療
					平井 梨	2外/放	放射線照射により切除可能となった直腸癌の1例
					石田 秀世	第1外科	再発大腸癌における CEA 値の検討
35	1985.6.24	田中 照二	内科(第三)	肝・胆・膵	藤沢 孝一郎	内科(第三)	肝動脈塞栓療法の経験例
					安藤 伊坪	第1内科	腹腔内出血で発見され TAE にて経過良好な HCC の1例
					橋口 文智	外科(第三)	肝門部癌の治療
36	1985.7.8	貴島 政邑	第2外科	食道	足利 建	第2外科	興味ある1手術例
					天野 良平	外科(第三)	胃に病変ある例での腸による再建例
					大平原 栗	2外/形成	胸壁前皮膚弁再建例
					伊坪 喜八郎	外科(第3)	大彎側胃壁による再建の経験
37	1985.9.9	倉石 安庸	第3内科	胃	相羽 惠介	第3内科	進行胃癌に対する PFM 療法
					高橋 宣胖	第2外科	演題不明
38	不明	不明		(大腸)	不明		演題不明
39	1985.11.11	橋口 / 中村亮	外科(第三)	肝・胆・膵	伊坪 真理子	第1内科	食道静脈瘤を合併した肝細胞癌切除不能例の予後
					宇井 忠公	内科(第三)	TAE 後 DIC を合併した1例
					吉田 和彦	第1外科	Fibrolamellar hepatocellular carcinoma の1例
					秋田 浩之	第2外科	肝癌に対する TAE 療法の効果
					村井 隆三	外科(第三)	胆のう癌に対する拡大手術
					岩本 公和	外科(第三)	転移性肝癌に対する肝切除(大腸癌中心)
40	1986.2.10	伊坪 喜八郎	外科(第三)	食道	関口 更一	第2外科	診断困難であった1例
					天野 良平	外科(第三)	当教室における治療方針
41	1986.3.10	高橋 宣胖	第2外科	胃	高橋 正人	第2外科	症例呈示(MTX,5FU,AraC 療法の試み)
					長山 瑛	外科(第三)	同上
					相羽 惠介	第3内科	Human Tumor Clonagenic Cell Assay の成績
					山下 孝	放射線科	胃癌に対する放射線, 温熱療法の経験
42	1986.5.12	三穂 乙実	外科(青戸)	肝臓	中村 亮	外科(第三)	急激な経過を辿った HCC の1例
					金崎 章	外科(第三)	TAE 症例の検討

回	開催日	当番世話人	所属	テーマ	演者	所属	演題名(趣旨)
43	1986.6.9	兼平 千裕	放射線科	食道	伊坪 真理子	第1内科	TAEの肝機能に及ぼす影響
					本間 定	第1内科	温熱療法の基礎と臨床
44	1986.7.14	倉石 安庸	第3内科	胃	伊藤	第2外科	早い発育経過, 面白い手術経過の1例
					天野 良平	外科(第三)	当科における非切除例
45	1986.10.13	平井 勝也	第2外科	大腸	相羽 惠介	第3内科	食道癌の化学療法
					高橋 藤井	第2外科	Stage IVの治療成績
46	1986.11.10	伊坪 真理子	第1内科	肝・胆・膵	穴澤 貞夫	第3内科	症例呈示
					山崎 秋葉	第1外科	肛門癌の2症例
47	1987.3.9	兼平 千裕	放射線科	肝・胆・膵	村井 隆三	外科(第三)	ビマン性浸潤癌の2症例
					成瀬 勝	第2外科	ビマン性浸潤癌の3症例
48	1987.7.13	伊坪 喜八郎	外科(第三)	食道	森本 晋	内科(第三)	胆嚢二重造影の試み
					伊坪 真理子	第1内科	胆嚢癌における集学的治療
49	1987.11.30	桜井 健司	第1外科	肝臓	伊坪 真理子	第1内科	肝細胞癌に対するエタノール局注療法
					小林 進	第1外科	症例呈示 (LAK療法を行ったHCC)
50	1988.3.14	倉石 安庸	第3内科	食道	船越 哲	第3内科	肝癌に対するVP-16の大量療法
					柳沢 暁	第2外科	慢性肝炎を伴ったhepatoma切除例の検討
51	1988.6.13	高橋 宣胖	第2外科	胃	本間 定	第1内科	肝・胆道癌の温熱療法
					伊坪 真理子	第1内科	最近5年内の第1内科における肝癌の治療
52	不明	不明	不明	不明	森本 晋	内科(第三)	原発性肝癌の集学的治療(外科的立場から)
					久保 宏隆	第2外科	原発性肝癌に対するエタノール局注療法
53	1988.12.12	兼平 千裕	放射線科	大腸	小堀 賢一	放射線科	頸部食道癌の一手術例
					半沢 隆	外科(第3)	症例呈示
54	不明	不明	不明	不明	伊坪 真理子	第1内科	症例呈示
					畝村 泰樹	第1外科	TAE困難HCCに対する抗癌剤動注・放射線併用療法
55	不明	不明	不明	不明	柳沢 暁	第2外科	肝血管筋脂肪腫(肝細胞癌との鑑別)
					鳥海 / 増	2外/内視鏡	肝癌破裂に対してTAE施行, 肝切除した1例
56	不明	不明	不明	不明	水沼 信之	第3内科	非切除食道癌における食道ブローチの使用経験
					藤崎 康人	第1外科	進行食道癌に対するPVB療法
57	不明	不明	不明	不明	半沢 隆	外科(第三)	早期食道癌の1例
					松田 実	第1外科	I u-cc, Stage IV (a2, n3+, H0, P10) 食道癌, 同時肺重複癌のR3術後1年3ヵ月を経過した一例
58	不明	不明	不明	不明	片岡 順三	外科(第三)	胃肉腫の一症例
					塚本 伝彦	第2外科	Borrmann IV型胃癌
59	不明	不明	不明	不明	落合 和徳	産婦人科	se胃癌の予後に関する検討
					青山 辰夫	第3内科	Krukenberg's tumorと胃癌
60	不明	不明	不明	不明	筋野 甫	第1内科	進行胃癌に対するPFM療法の試み
					神山 正之	内視鏡科	胃癌の温熱療法
61	不明	不明	不明	不明	宮川 政昭	第2内科	レーザー治療が奏効した進行胃癌の一例
					不明	不明	腎不全時の化学療法
62	不明	不明	不明	不明	宮本 栄	第1外科	演題不明
					三浦 栄一郎	外科(第三)	大腸癌肝転移症例の時間学
63	不明	不明	不明	不明	不明	不明	四重複癌の一症例(教室における大腸重複癌の検討含め)
					不明	不明	不明

回	開催日	当番世話人	所属	テーマ	演者	所属	演題名(趣旨)
54	1989.3.13	倉石 安庸	第3内科	胃	青柳 裕	放射線科	再発直腸癌の放射線治療
					青山 辰夫	第3内科	PMF療法耐性進行胃癌に対するEtoposideを含む治療経験
					河野 修三	第1外科	胃癌穿孔例の検討
					三森 教雄	外科(第三)	動注化学療法が有効であった胃癌肝転移症例
55	1989.6.12	伊坪 真理子	第1内科	肝・胆・膵	橋本 雄幸	第1外科	最近経験した肝門部胆管癌の一切除例
					橋口 文智	外科(第三)	症例呈示
					伊坪 真理子	第1内科	肝細胞癌のLp-TAE治療効果判定への三次元画像の応用
56	1989.11.6	兼平 千裕	放射線科	食道	塚本 伝彦	第2外科	食道メラノーマの一例
					増淵 正隆	外科(第三)	進行症例に対する術前放射線療法の効果
					岩本 公和	外科(第三)	大腸癌イレウス緊急手術例の検討
57	1990.4.9	高橋 宣胖	外科(青戸)	大腸	水沼 信之	第3内科(癌研)	大腸癌の最近の化学療法
					大野 直之	第1外科	直腸の内分泌細胞癌4例の検討
					水沼 信之	第3内科(癌研)	胃癌の化学療法の現況
58	1990.6.11	倉石 安庸	第3内科	胃	成宮 徳親	内科(第三)	胃悪性リンパ腫の化療後の変化について

V. お わ り に

保存されている記録が乏しく32年間の軌跡を述べきれていないが、研究会スタート当初の志については正しく伝えることができたと思う。本研究会は、ナンバー内科・外科の時代には各教室での診療・研究実績を競い合いつつ向上に繋げ、実臨床・研究にフィードバックしていった。卒後早くからの肝癌診療・研究の継続が契機となり世話人として関わり続けてきた本研究会への思い入れもあるが、関連各科医師が集まり32年間継続しえた本研究会の意義は大きい。日々の過酷なスケジュールの中、所属する学会・研究会にも追われ参加意欲の低下が懸念されるが、消化器癌診療に関わる各科医師・研修医は、知見の共有・情報交換・学習の場として本研究会を活用し、さらなる活性化が図られることを期待したい。

著者の利益相反 (conflict of interest: COI) 開示:

本論文の研究内容に関連して特に申告なし